

登米市立宝江小学校だより



あかまつ

夢と志をもち、自らをきりひらくたくましい子ども
まなぶ子 たくましい子 やさしい子
ホームページアドレス <http://www.tomei-svr.jp/~takarae-syo/html/>
メールアドレス takarae-syo@city.tomei.miyagi.jp

令和2年1月30日(木)

発行責任者 校長 山内 晴子

登米市中田町宝江新井田字後田22番地

TEL 34-2144 FAX 34-4313

令和2年度に向けて

校長 山内 晴子

3学期もほぼ一ヶ月が過ぎ、児童は日々元気に学校生活を送っています。学習や諸活動も順調に進んでおり、次の学年への進級・進学に向けて子どもたちなりに準備をしているところです。

さて、来年度はいよいよ、小学校学習指導要領の全面実施となります。『一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識するとともにあらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること』が求められています。このあり方を具現化するために、各学校が教育課程を組み立て、実践していきます。実践するためには、学校と社会が連携・協働を図り、開かれた教育課程を実現することが最も重要となります。

この理念を踏まえ、本校宝江小学校でもこれまで準備を重ねてきました。子どもに力を付けるために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とはどうあればよいか、話し合い実践を積んできました。「主体的・対話的で深い学び」とは、基礎的な知識・技能を学び、生活の中でそれらを活用しながら自分から課題を見つけ、その解決に向けて自分から、仲間と共に探求し、学んだことを表現したり実践に生かしていったりする学びであると考えます。「自分から」「仲間とともに」「生かす」等がキーワードではないかと思えます。このような学びを進めるために、教師は多様な準備・仕掛けを工夫する必要があります。見通しをもって学習に向かわせる工夫や次の学習につなげる工夫、仲間や先生、地域の人たちから学ぶことができる工夫、考えを広げたり深めたりできる工夫、表現できる場面を設定する工夫など、多様な工夫をしていくことが求められます。教職員が知恵を出し合い、結束して児童の学習を進めていく必要があります。まさに「チーム宝江」としてこれまで実践してきたことを生かして、来年度も更にチーム力を高めていきたいと考えます。

本校の子どもたちは、明るく素直で周囲の仲間を大切にしているよさをもっています。授業では、先生の話をしっかり聞こうとする姿が見られ、自分の考えをもって他の考えを尊重しながら自分の考えをより良くしていこうとする姿も見られます。学校行事では、一つ一つの取組の目的を意識しながら熱心に行おうとする姿勢が見られます。これらのよさを強みにして、変化が激しくなると言われている将来においてたくましく生き抜く担い手を育てていきたいと考えています。

ある書物に子どもは「未来からの預かりもの」と書かれていました。一人一人がかけがえのない存在なので、その点を十分に尊重して新しい教育課程を実施していきます。「学校に行きたい。」「友だちと学びたい。」という思いをもたせるように1時間1時間の授業の工夫を図っていききたいと思えます。

そのために来年度も保護者の方々・地域の方々と手と手を携えて力を注いで参りたいと思えます。



1年と6年の交流給食



地域から学ぶ館神楽